

化学療法計画書

治療法名	G-SOX130/オブジーボ		
コース数		コース目	
治療法コード	胃がん(切除不能/進行再発)		
患者氏名		♂	年齢
開始予定日	患者ID	生年月日	年 月 日
	部署	主治医	科 Dr
治療内容	Day	1 8 15 22	
	治療予定日	1/0 / /	1/21
オブジーボ	360 mg	↓	→(朝・夕食後)
オキサリプラチン	130 mg/m ²	↓	
エスワン	60 mg/回		
デキサート	6.6mg	↓	
パロノセトロン	0.75mg	↓	
デカドロン	8mg	↓↓↓	
治療開始日		治療 間隔	3週毎 予定コース
身長	150 cm	体重	50 kg BSA 1.4 m ²
eGFR	79 ml/min	eGFR/BSA	64 ml/min

インラインフィルターを使用	
Day1	
1) 生理食塩液 50ml	血管確保
↓	
2) 生理食塩液 50ml オブジーボ 360mg	30分
↓	
3) 生理食塩液 50ml	フラッシュ
↓	
4) パロノセトロン 0.75mg	30分
↓	
5) 5%ブドウ糖 250ml デキサート 6.6mg オキサリプラチン 182mg	2h (温罨法) 穿刺部位の十分な観察
↓	
6) 生理食塩液 50ml	フラッシュ

投与開始基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 ≥ 3000 好中球 ≥ 1500 ・ Plt ≥ 75000 AST/ALT ≤ 100 (肝転移 ≤ 200) Cr < 1.5 下痢、口内炎 ≤ G1 神経障害 ≤ G2
S-1クール内休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 < 1000 ・ Plt < 75000 AST/ALT ≥ 100 Cr ≥ ULN × 1.5 下痢 ≥ G2 ・ 粘膜炎/口内炎 ≥ G2
S-1クール内再開基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 ≥ 1000 ・ Plt ≥ 75000 Cr < ULN × 1.5 下痢 ≤ G1 ・ 粘膜炎/口内炎 ≤ G1

day 1(夕食後開始) ~ day15 (朝食後まで)		
Rp) S-1		BSA (m ²)
(20)	6錠/分 2	>1.5
(25)	4錠/分 2	1.25-1.5
(20)	4錠/分 2	<1.25

S-1減量		
BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg
オキサリプラチン減量基準		
0	(-1)	(-2)
130mg/m ²	100mg/m ²	75mg/m ²

オキサリプラチン減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 75000 またはday22に75000以上100000未満の場合 FN
S-1減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 50000 FN 下痢 ≥ G3以上

デカドロンはday2の朝から
S-1は当日夕から

化学療法計画書

治療法名	G-SOX130/オプジーボ (アレルギー)		
コース数		コース目	
治療法コード	胃がん (切除不能/進行再発)		
患者氏名		♂	年齢
開始予定日	患者ID	生年月日	年 月 日
	部署	主治医	科 Dr
治療内容	Day	1 8 15 22	
	治療予定日	1/0 / /	1/21
オプジーボ オキサリプラチン エスワン	360 mg 130 mg/m ² 60 mg/回	↓ ↓	→(朝・夕食後)
デキサート パロノセトロン ファモチジン デカドロン レスタミン	13.2mg 0.75mg 1A 8mg 5錠	↓ (6.6mg×2回) ↓ ↓ ↓↓↓ ↓	
治療開始日		治療 間隔	3週毎 予定コース コース
身長	150 cm	体重	50 kg BSA 1.4 m ²
eGFR	79 ml/min	eGFR/BSA	64 ml/min

インラインフィルターを使用

Day1

- 1) 生理食塩液 50ml | 血管確保
- ↓
- 2) 生理食塩液 50ml |
オプジーボ 360mg 30分
- ↓
- 3) 生理食塩液 50ml | フラッシュ
- ↓
- 4) パロノセトロン 0.75mg | 4) 開始と共にレスタミン内服
デキサート 6.6mg
ファモチジン 1A 30分
- ↓
- 5) 5%ブドウ糖 250ml |
デキサート 6.6mg
オキサリプラチン 182mg 2h
- ↓ (温罨法) 穿刺部位の十分な観察
- 6) 生理食塩液 50ml | フラッシュ

投与開始基準

- ・白血球 ≥ 3000
- ・好中球 ≥ 1500 ・Plt ≥ 75000
- ・AST/ALT ≤ 100 (肝転移 ≤ 200)
- ・Cr < 1.5
- ・下痢、口内炎 ≤ G1
- ・神経障害 ≤ G2

S-1クール内休薬基準

- ・好中球 < 1000 ・Plt < 75000
- ・AST/ALT ≥ 100
- ・Cr ≥ ULN × 1.5
- ・下痢 ≥ G2 ・粘膜炎/口内炎 ≥ G2

S-1クール内再開基準

- ・好中球 ≥ 1000 ・Plt ≥ 75000
- ・Cr < ULN × 1.5
- ・下痢 ≤ G1 ・粘膜炎/口内炎 ≤ G1

day 1(夕食後開始) ~day15 (朝食後まで)

Rp) S-1		BSA (m ²)
(20)	6錠/分2	>1.5
(25)	4錠/分2	1.25-1.5
(20)	4錠/分2	<1.25

S-1減量

BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg
オキサリプラチン減量基準		
0	(-1)	(-2)
130mg/m ²	100mg/m ²	75mg/m ²

デカドロンはday2の朝から
S-1は当日夕から

オキサリプラチン減量基準

- ・白血球 < 1000
- ・好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合)
- ・血小板 < 75000
- またはday22に75000以上100000未満の場合
- ・FN

S-1減量基準

- ・白血球 < 1000
- ・好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合)
- ・血小板 < 50000
- ・FN
- ・下痢 ≥ G3以上

化学療法計画書

治療法名	CapeOX/オブジーボ		
コース数		コース目	
腫瘍種	胃がん（切除不能/進行再発）		
患者氏名		♂	年齢
開始予定日	患者ID	生年月日	年 月 日
	部署	主治医	科 Dr
治療内容	Day	1 8 15 22	
	治療予定日	1/0 / /	1/21
オブジーボ	360 mg	↓	→ (朝・夕食後)
オキサリプラチン	130 mg/m ²	↓	
カペシタビン	2000 mg/m ²		
デキサート	6.6mg	↓	→ (朝・夕食後)
パロノセトロン	0.75mg	↓	
デカドロン	8mg	↓↓↓	
ピリドキサル	60mg		
治療開始日		治療間隔	3週毎 予定コース コース
身長	150 cm	体重	50 kg BSA 1.4 m ²
eGFR	79 ml/min	eGFR/BSA	64 ml/min

インラインフィルターを使用

Day1	
1) 生理食塩液 50ml	血管確保
↓	
2) 生理食塩液 50ml	
オブジーボ 360mg	30分
↓	
3) 生理食塩液 50ml	フラッシュ
↓	
4) パロノセトロン 0.75mg	30分
↓	
5) 5%ブドウ糖 250ml	
デキサート 6.6mg	2h
オキサリプラチン 182mg	(温電法) 穿刺部位の十分な観察
↓	
6) 生理食塩液 50ml	フラッシュ

投与開始基準 1. 好中球1,500以上 2. 血小板7.5万以上 3. 脳転移のない患者 4. P S 0-1 5. AST/ALT<100 6. T-BIL<2 7. Cr<1.5×ULN カペシタビン (CCr<30未満は禁忌、30≤CCr≤50は75%量)
--

オキサリプラチン減量基準 1. 好中球 500未満 2. 血小板5万未満 3. G3以上の有害事象⇒オキサリプラチン100/m ² に減量 (2回目発現時: 85mg/m ² に減量)

カペシタビンの休薬・減量基準 ・ G2の副作用⇒G0-1まで休薬 (再開時同一用量) 2回目: 減量1段階 3回目: 減量2段階で再開 ・ G3の副作用⇒G0-1まで休薬→減量1段階で再開 2回目: 減量2段階で再開

カペシタビン投与量	
体表面積	1回用量
1. 36m ² 未満	1200mg (4錠)
1. 36m ² ~1.66m ² 未満	1500mg (5錠)
1. 66m ² ~1.96m ² 未満	1800mg (6錠)
1. 96m ² 以上	2100mg (7錠)
カペシタビン減量時投与量	
体表面積	1回用量
	減量1段階 減量2段階
1. 41m ² 未満	900mg 600mg
1. 41m ² ~1.51m ² 未満	1200mg 900mg
1. 51m ² ~1.81m ² 未満	1500mg 1200mg
1. 81m ² ~2.11m ² 未満	
2. 11m ² 以上	

カペシタビン、ピリドキサルはday1の夕から
 デカドロンはday2の朝から

化学療法計画書

治療法名	CapeOX/オブジーボ (アレルギー)				
コース数		コース目			
腫瘍種	胃がん (切除不能/進行再発)				
患者氏名		♂	年齢		
開始予定日	患者ID	生年月日	年	月	日
	部署	主治医	科 Dr		
治療内容	Day	1	8	15	22
	治療予定日	1/0	/	/	1/21
オブジーボ	360 mg	↓			
オキサリプラチン	130 mg/m ²	↓			
カペシタビン	2000 mg/m ²	→ (朝・夕食後)			
デキサート	13.2mg	↓ (6.6mg × 2回)			
パロノセトロン	0.75mg	↓			
ファモチジン	1A	↓ ↓ ↓			
デカドロン	8mg				
レスタミン	5錠				
ピリドキサル	60mg	→ (朝・夕食後)			
治療開始日	治療間隔	3週毎	予定コース	コース	
身長 150 cm	体重 50 kg	BSA 1.4 m ²			
eGFR 79 ml/min	eGFR/BSA 64 ml/min				

インラインフィルターを使用

Day1

- 1) 生理食塩液 50ml 血管確保
- ↓
- 2) 生理食塩液 50ml
オブジーボ 360mg 30分
- ↓
- 3) 生理食塩液 50ml フラッシュ
- ↓
- 4) パロノセトロン 0.75mg 30分
デキサート 6.6mg
ファモチジン 1A 4) 開始と共にレスタミン内服
- ↓
- 5) 5%ブドウ糖 250ml
デキサート 6.6mg 2h
オキサリプラチン 182mg (温電法) 穿刺部位の十分な観察
- ↓
- 6) 生理食塩液 50ml フラッシュ

投与開始基準

1. 好中球1,500以上 2. 血小板7.5万以上
 3. 脳転移のない患者 4. P S 0-1
 5. AST/ALT<100 6. T-BIL<2
 7. Cr<1.5×ULN
- カペシタビン (CCr<30未満は禁忌、30≤CCr≤50は75%量)

オキサリプラチン減量基準

1. 好中球 500未満
2. 血小板5万未満
3. G3以上の有害事象⇒オキサリプラチン100/m²に減量 (2回目発現時; 85mg/m²に減量)

カペシタビンの休薬・減量基準

- ・ G2の副作用⇒G0-1まで休薬 (再開時同一用量)
2回目: 減量1段階 3回目: 減量2段階で再開
- ・ G3の副作用⇒G0-1まで休薬→減量1段階で再開
2回目: 減量2段階で再開

カペシタビン 投与量

体表面積	1回用量
1. 36m ² 未満	1200mg (4錠)
1. 36m ² ~1.66m ² 未満	1500mg (5錠)
1. 66m ² ~1.96m ² 未満	1800mg (6錠)
1. 96m ² 以上	2100mg (7錠)

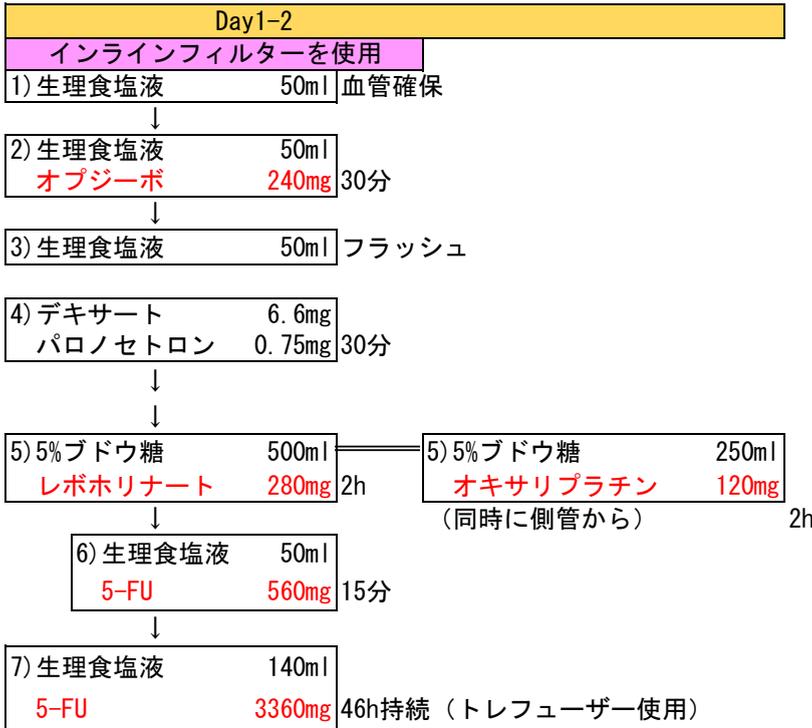
カペシタビン減量時投与量

体表面積	1回用量	
	減量1段階	減量2段階
1. 41m ² 未満	900mg	600mg
1. 41m ² ~1.51m ² 未満	1200mg	900mg
1. 51m ² ~1.81m ² 未満		
1. 81m ² ~2.11m ² 未満	1500mg	1200mg
2. 11m ² 以上		

カペシタビン、ピリドキサルはday1の夕から
デカドロンはday2の朝から

化学療法計画書

治療法名		mFOLFOX6/オプジーボ			
コース数		コース目			
腫瘍種	胃がん（切除不能/進行再発）				
患者氏名		♂	年齢		
開始予定日	患者ID	生年月日	年	月	日
	部署	主治医	科	Dr	
治療内容	Day	1	8	15	
	予定日	1/0	/	1/14	
オプジーボ	240 mg	↓			
レボホリナート	200 mg/m ²	↓			
5-FU	400 mg/m ²	↓			
5-FU	2400 mg/m ²	↓			
オキサリプラチン	85 mg/m ²	↓			
デキサート	6.6mg	↓			
パロノセトロン	0.75mg	↓			
デカドロン	8mg	↓↓↓			
治療開始日	年	月	日	治療	間隔
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.4 m ²
eGFR	60 ml/min	eGFR/BSA	49 ml/min		



投与開始基準
1. 好中球1500以上
2. 血小板7.5万以上
3. AST/ALT < 2.5 × ULN
4. T-Bil < 1.5 × ULN
5. Cr: 1.2未満

減量基準
1. 好中球 500未満
2. 血小板5万未満
5-FUを20%減量
オキサリプラチン65/m ² に減量

デカドロンはday2の朝から内服

化学療法計画書

治療法名		mFOLFOX6/オプジーボ（アレルギー）						
コース数		コース目						
腫瘍種	胃がん（切除不能/進行再発）							
患者氏名					♂	年齢		
開始予定日	患者ID	生年月日		年	月	日		
	部署	主治医		科 Dr				
治療内容	Day	1 8		15				
	予定日	1/0 /		1/14				
オプジーボ	240 mg	↓						
レボホリナート	200 mg/m2	↓						
5-FU	400 mg/m2	↓						
5-FU	2400 mg/m2	↓						
オキサリプラチン	85 mg/m2	↓						
デキサート	6.6mg	↓						
パロノセトロン	0.75mg	↓						
デカドロン	8mg	↓↓↓						
レスタミン	5錠	↓						
ファモチジン	1A	↓						
治療開始日	年	月	日	治療	間隔	2週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.4 m2			
eGFR	60 ml/min	eGFR/BSA	49 ml/min					

Day1-2

インラインフィルターを使用

1) 生理食塩液 50ml 血管確保

2) 生理食塩液 50ml
オプジーボ 240mg 30分

3) 生理食塩液 50ml フラッシュ

4) デキサート 6.6mg
パロノセトロン 0.75mg 30分
ファモチジン 1A 4) 開始と同時にレスタミン内服

5) 5%ブドウ糖 500ml
レボホリナート 280mg 2h

5) 5%ブドウ糖 250ml
オキサリプラチン 120mg 2h
(同時に側管から)

6) 生理食塩液 50ml
5-FU 560mg 15分

7) 生理食塩液 140ml 46h持続（トレフューザー使用）
5-FU 3360mg

投与開始基準

- 好中球1500以上
- 血小板7.5万以上
- AST/ALT<2.5×ULN
- T-Bil<1.5×ULN
- Cr:1.2未満

減量基準

- 好中球 500未満
- 血小板5万未満
5-FUを20%減量
オキサリプラチン65/m2に減量

* デカドロン錠はday2の朝から内服

化学療法計画書

治療法名		エンハーツ					
コース数				コース目			
腫瘍種		胃がん (HER2陽性)					
患者名				♀	年齢		
開始予定日		患者ID		生年月日			
		部署		主治医	科	Dr	
治療内容		Day	1 8 15			22 29	
		予定日	1/0		1/7	1/14	1/21 1/28
エンハーツ		6.4 mg/kg	↓				↓
パロノセトロン		0.75mg	↓				↓
デキサート		6.6mg	↓				↓
デカドロン		8mg	↓↓↓				
治療開始日				治療間隔	3週毎	予定コース数	コース
身長	150	cm	体重	50	kg	BSA	1.40 m ²
eGFR	60	ml/min	eGFR/BSA	49	ml/min		

Day 1	
インラインフィルターを使用	
1) パロノセトロン 0.75mg	30分
デキサート 6.6mg	
↓	
2) 5%ブドウ糖 100ml	・ 1Vの溶解は水5ml
エンハーツ 320mg	・ 調製後遮光カバー装着
↓	
インフュージョンリアクションに注意	
初回90分 2回目以降 初回の忍容性良好なら30分で	
↓	
3) 生理食塩液 50ml	フラッシュ

★間質性肺炎に留意 (CT 問診 酸素飽和度 など)

休薬・中止基準 (好中球)	
G3	G2 まで休薬 回復後1段階減量または同一用量で再開
G4	G2以下まで休薬 回復後1段階減量で再開
休薬・中止基準 (発熱好中球減少症)	
回復するまで休薬 回復後1段階減量で	
休薬・中止基準 (血小板)	
G3	G1以下まで休薬 7日以内に回復は同一用量で 7日を超過して回復した場合は1段階減量で
G4	G1以下に回復後1段階減量して再開

減量の目安	
通常	6.4mg/kg
1段階減量	5.4mg/kg
2段階減量	4.4mg/kg
3段階減量	投与中止

投与開始基準 (選択基準)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ LVEF50%以上 ・ 好中球数\geq1500 血小板数\geq10万 ・ Hb\geq9.0, CCr\geq30, T-BiL\leq1.5\timesULN ・ AST/ALT\leq3.0\timesULN 	
休薬・中止基準 (LVEF)	
40% \leq LVEF \leq 45%	ベースから10%未満低下 →休薬、3週間以内に再測定を行う ベースから10%以上低下 →休薬、3週間以内に再測定を行う 絶対値の変化 $<$ 10%に回復しない場合中止
LVEF $<$ 40%	→休薬、3週間以内に再測定を行う LVEF $<$ 40%の場合中止
症候性うっ血心不全→中止	
休薬・中止基準 (T-BiL) (AST/ALT)	
G2	G1以下まで休薬 7日以内に回復は同一用量で 7日を超過して回復した場合は1段階減量で
G3	G1以下まで休薬 7日以内に回復は1段階減量で 7日を超過して回復した場合は投与中止
G4	中止
休薬・中止基準 (下痢)	
G3	G1以下まで休薬 3日以内に回復は同一用量で 3日を超過して回復した場合は1段階減量で
G4	中止

心機能モニタリング (心エコー等) 4サイクル毎

デカドロンはday2の朝から

化学療法計画書

治療法名		CapeOX			
コース数		コース目			
腫瘍種		大腸がん/胃がん			
患者氏名				♂	年齢
開始予定日	患者ID	生年月日		年	月 日
	部署	主治医		科 Dr	
治療内容	Day	1 8 15 22			
	治療予定日	1/0 / /			
オキサリプラチン	130 mg/m ²	↓			
カペシタビン	2000 mg/m ²	→ (朝・夕食後)			
デキサート	6.6mg	↓			
パロノセトロン	0.75mg	↓			
デカドロン	8mg	↓↓↓			
ピリドキサル	60mg	→ (朝・夕食後)			
治療開始日		治療 間隔	3週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.4 m ²
eGFR	79 ml/min	eGFR/BSA	64 ml/min		

Day1

- 1) パロノセトロン 0.75mg 30分
↓
- 2) 5%ブドウ糖 250ml
デキサート 6.6mg 2h
オキサリプラチン 182mg (温罨法) 穿刺部位の十分な観察
↓
- 3) 生理食塩液 50ml フラッシュ

カペシタビン 投与量	
体表面積	1回用量
1.36m ² 未満	1200mg (4錠)
1.36m ² ~1.66m ² 未満	1500mg (5錠)
1.66m ² ~1.96m ² 未満	1800mg (6錠)
1.96m ² 以上	2100mg (7錠)
カペシタビン減量時投与量	
体表面積	1回用量
	減量1段階 減量2段階
1.41m ² 未満	900mg 600mg
1.41m ² ~1.51m ² 未満	1200mg 900mg
1.51m ² ~1.81m ² 未満	1500mg 1200mg
1.81m ² ~2.11m ² 未満	1800mg 1500mg
2.11m ² 以上	2100mg 1800mg

カペシタビン、ピリドキサルはday1の夕から
デカドロンはday2の朝から

投与開始基準

1. 好中球1,500以上 2. 血小板7.5万以上
 3. 脳転移のない患者 4. PS 0-1
 5. AST/ALT<100 6. T-BIL<2
 7. Cr<1.5×ULN
- カペシタビン (CCr<30未満は禁忌、30≤CCr≤50は75%量)

オキサリプラチン減量基準

1. 好中球 500未満
2. 血小板5万未満
3. G3以上の有害事象⇒オキサリプラチン100/m²に減量 (2回目発現時; 85mg/m²に減量)

カペシタビンの休薬・減量基準

- ・ G2の副作用⇒G0-1まで休薬 (再開時同一用量)
2回目:減量1段階 3回目:減量2段階で再開
- ・ G3の副作用⇒G0-1まで休薬→減量1段階で再開
2回目:減量2段階で再開

化学療法計画書

治療法名	Cape0X (アレルギー)		
コース数		コース目	
腫瘍種	大腸がん/胃がん		
患者氏名		♂	年齢
患者ID		生年月日	年 月 日
部署		主治医	科 Dr
開始予定日			
治療内容	Day	1 8 15 22	
	治療予定日	1/0	
オキサリプラチン	130 mg/m ²	↓	
カペシタビン	2000 mg/m ²	→ (朝・夕食後)	
デキサート	13.2mg	↓ (6.6mg × 2)	
パロノセトロン	0.75mg	↓	
ファモチジン	1A	↓	
レスタミン	5錠	↓	
デカドロン	8mg	↓↓↓	
ピリドキサル	60mg	→ (朝・夕食後)	
治療開始日		治療 間隔	3週毎 予定コース コース
身長	150 cm	体重	50 kg BSA 1.4 m ²
eGFR	79 ml/min	eGFR/BSA	64 ml/min

Day1

1) パロノセトロン	0.75mg	30分	
デキサート	6.6mg		
ファモチジン	1A		1) 開始と共にレスタミン内服

2) 5%ブドウ糖	250ml		
デキサート	6.6mg	2h	
オキサリプラチン	182mg		(温電法) 穿刺部位の十分な観察

3) 生理食塩液	50ml	フラッシュ
----------	------	-------

投与開始基準
1. 好中球1,500以上 2. 血小板7.5万以上
3. 脳転移のない患者 4. PS 0-1
5. AST/ALT<100 6. Cr<1.5×ULN
7. T-BIL<2
カペシタビン (CCr<30未満は禁忌、30≤CCr≤50は75%量)

オキサリプラチン減量基準
1. 好中球 500未満
2. 血小板5万未満
3. G3以上の有害事象⇒エルプラット100/m ² に減量 (2回目発現時; 85mg/m ² に減量)

カペシタビン 投与量	
体表面積	1回用量
1. 36m ² 未満	1200mg (4錠)
1. 36m ² ~1. 66m ² 未満	1500mg (5錠)
1. 66m ² ~1. 96m ² 未満	1800mg (6錠)
1. 96m ² 以上	2100mg (7錠)
カペシタビン減量時投与量	
体表面積	1回用量
	減量1段階 減量2段階
1. 41m ² 未満	900mg 600mg
1. 41m ² ~1. 51m ² 未満	1200mg 900mg
1. 51m ² ~1. 81m ² 未満	1500mg 1200mg
1. 81m ² ~2. 11m ² 未満	
2. 11m ² 以上	

カペシタビンの休薬・減量基準
・ G2の副作用⇒G0-1まで休薬 (再開時同一用量)
2回目; 減量1段階 3回目; 減量2段階で再開
・ G3の副作用⇒G0-1まで休薬→減量1段階で再開
2回目; 減量2段階で再開

カペシタビン、ピリドキサルはday1の夕から
デカドロンはday2の朝から

化学療法計画書

治療法名	G-SOX				
コース数		コース目			
治療法コード	胃がん				
患者氏名		♂	年齢		
開始予定日	患者ID	生年月日	年	月	日
	部署	主治医	科		Dr
治療内容	Day	1 8 15 22			
	治療予定日	1/0 / / / /			
オキサリプラチン	100 mg/m ²				
エスワン	60 mg/回	→(朝・夕食後)			
デキサート	6.6mg	↓			
パロノセトロン	0.75mg	↓			
デカドロン	8mg	↓↓↓			
治療開始日		治療 間隔	3週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.4 m ²
eGFR	79 ml/min	eGFR/BSA	64 ml/min		

Day1		
1) パロノセトロン	0.75mg	30分
↓		
2) 5%ブドウ糖	250ml	
デキサート	6.6mg	2h
オキサリプラチン	140mg	(温罨法) 穿刺部位の十分な観察
↓		
3) 生理食塩液	50ml	フラッシュ
day 1(夕食後開始) ~day15 (朝食後まで)		
Rp) S-1		BSA (m ²)
(20)	6錠/分2	>1.5
(25)	4錠/分2	1.25-1.5
(20)	4錠/分2	<1.25

投与開始基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 ≥ 3000 好中球 ≥ 1500 ・ Plt ≥ 75000 AST/ALT ≤ 100 (肝転移 ≤ 200) Cr < 1.5 下痢、口内炎 ≤ G1 神経障害 ≤ G2
S-1クール内休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 < 1000 ・ Plt < 75000 AST/ALT ≥ 100 Cr ≥ ULN × 1.5 下痢 ≥ G2 ・ 粘膜炎/口内炎 ≥ G2
S-1クール内再開基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 ≥ 1000 ・ Plt ≥ 75000 Cr < ULN × 1.5 下痢 ≤ G1 ・ 粘膜炎/口内炎 ≤ G1

S-1減量		
BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg
オキサリプラチン減量基準		
0	(-1)	(-2)
100mg/m ²	75mg/m ²	50mg/m ²

オキサリプラチン減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 75000 またはday22に75000以上100000未満の場合 FN
S-1減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 50000 FN 下痢 ≥ G3以上

デカドロンはday2の朝から
S-1は当日夕から

化学療法計画書

治療法名	G-SOX (アレルギー)		
コース数		コース目	
治療法コード	胃がん		
患者氏名		♂	年齢
患者ID		生年月日	年 月 日
部署		主治医	科 Dr

開始予定日

開始予定日	1	8	15	22
-------	---	---	----	----

治療内容	Day	1	8	15	22
------	-----	---	---	----	----

治療予定日	1/0	/	/	
-------	-----	---	---	--

オキサリプラチン	100 mg/m ²	↓	
エスワン	60 mg/回	→	(朝・夕食後)

デキサート	13.2mg	↓	(6.6mg × 2)
パロノセトロン	0.75mg	↓	
デカドロン	8mg	↓↓↓	
ファモチジン	1A	↓	
レスタミン	5錠	↓	

治療開始日	治療	間隔	3週毎	予定コース	コース
-------	----	----	-----	-------	-----

身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.4 m ²
----	--------	----	-------	-----	--------------------

eGFR	79 ml/min	eGFR/BSA	64 ml/min
------	-----------	----------	-----------

Day1

1) パロノセトロン	0.75mg	30分	
デキサート	6.6mg		
ファモチジン	1A		1) 開始と共にレスタミン内服

2) 5%ブドウ糖	250ml		
デキサート	6.6mg	2h	
オキサリプラチン	140mg		(温罨法) 穿刺部位の十分な観察

3) 生理食塩液	50ml	フラッシュ	
----------	------	-------	--

day 1(夕食後開始) ~day15 (朝食後まで)

Rp) S-1		BSA (m ²)
(20)	6錠/分2	>1.5
(25)	4錠/分2	1.25-1.5
(20)	4錠/分2	<1.25

投与開始基準

- ・白血球 ≥ 3000
- ・好中球 ≥ 1500 ・Plt ≥ 75000
- ・AST/ALT ≤ 100 (肝転移 ≤ 200)
- ・Cr < 1.5
- ・下痢、口内炎 ≤ G1
- ・神経障害 ≤ G2

S-1クール内休業基準

- ・好中球 < 1000 ・Plt < 75000
- ・AST/ALT ≥ 100
- ・Cr ≥ ULN × 1.5
- ・下痢 ≥ G2 ・粘膜炎/口内炎 ≥ G2

S-1クール内再開基準

- ・好中球 ≥ 1000 ・Plt ≥ 75000
- ・Cr < ULN × 1.5
- ・下痢 ≤ G1 ・粘膜炎/口内炎 ≤ G1

S-1減量

BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg

オキサリプラチン減量基準

0	(-1)	(-2)
100mg/m ²	75mg/m ²	50mg/m ²

デカドロンはday2の朝から
S-1は当日夕から

オキサリプラチン減量基準

- ・白血球 < 1000
- ・好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合)
- ・血小板 < 75000
- またはday22に75000以上100000未満の場合
- ・FN

S-1減量基準

- ・白血球 < 1000
- ・好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合)
- ・血小板 < 50000
- ・FN
- ・下痢 ≥ G3以上

化学療法計画書

治療法名	SOX130/HER		
コース数	1	コース目	
治療法コード	胃がん		
患者氏名		♂	年齢
患者ID		生年月日	年 月 日
部署		主治医	科 Dr
開始予定日			
治療内容	Day	1	8
	治療予定日	1/0	/ /
トラスツズマブ	8 mg/kg	↓	
オキサリプラチン	130 mg/m ²	↓	
エスワン	60 mg/回		→(朝・夕食後)
デキサート	6.6mg	↓	
パロノセトロン	0.75mg	↓	
デカドロン	8mg	↓↓↓	
治療開始日		治療 間隔	3週毎 予定コース
身長	150 cm	体重	50 kg BSA 1.4 m ²
eGFR	79 ml/min	eGFR/BSA	64 ml/min

Day1			
1) 生理食塩液	50ml	血管確保	
↓			
2) 生理食塩液	250ml		
トラスツズマブ	400mg	90分	インフュージョンリアクションに注意
↓			
3) パロノセトロン	0.75mg	30分	
↓			
4) 5%ブドウ糖	250ml		
デキサート	6.6mg	2h	
オキサリプラチン	182mg		(温罨法) 穿刺部位の十分な観察
↓			
5) 生理食塩液	50ml	フラッシュ	
day 1(夕食後開始) ~ day15 (朝食後まで)			
Rp) S-1		BSA (m ²)	
	(20)	6錠/分2	>1.5
	(25)	4錠/分2	1.25-1.5
	(20)	4錠/分2	<1.25

投与開始基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 ≥ 3000 好中球 ≥ 1500 ・ Plt ≥ 75000 AST/ALT ≤ 100 (肝転移 ≤ 200) Cr < 1.5 下痢、口内炎 ≤ G1 神経障害 ≤ G2
S-1クール内休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> HER2過剰発現あり LVEF50%以上
S-1クール内再開基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 < 1000 ・ Plt < 75000 AST/ALT ≥ 100 Cr ≥ ULN × 1.5 下痢 ≥ G2 ・ 粘膜炎/口内炎 ≥ G2
S-1クール内再開基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 ≥ 1000 ・ Plt ≥ 75000 Cr < ULN × 1.5 下痢 ≤ G1 ・ 粘膜炎/口内炎 ≤ G1

S-1減量		
BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg
オキサリプラチン減量基準		
0	(-1)	(-2)
130mg/m ²	100mg/m ²	75mg/m ²

デカドロンはday2の朝から
S-1は当日夕から

オキサリプラチン減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 75000 またはday22に75000以上100000未満の場合 FN
S-1休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 50000 FN 下痢 ≥ G3以上

化学療法計画書

治療法名	SOX130/HER (2コース目以降)		
コース数		コース目	
治療法コード	胃がん		
患者氏名		♂	年齢
開始予定日	患者ID	生年月日	年 月 日
	部署	主治医	科 Dr
治療内容	Day	1 / 8 / 15 / 22	
	治療予定日	1/0	
トラスツズマブ	6 mg/kg	↓	
オキサリプラチン	130 mg/m ²	↓	
エスワン	60 mg/回	→ (朝・夕食後)	
デキサート	6.6mg	↓	
パロノセトロン	0.75mg	↓	
デカドロン	8mg	↓↓↓	
治療開始日	治療 間隔	3週毎	予定コース
身長	150 cm	体重	50 kg
eGFR	79 ml/min	eGFR/BSA	64 ml/min
	BSA	1.4 m ²	コース

Day1			
1) 生理食塩液	50ml	血管確保	
↓			
2) 生理食塩液	250ml		
トラスツズマブ	300mg	30分	インフュージョンリアクションに注意
↓			
3) パロノセトロン	0.75mg	30分	
↓			
4) 5%ブドウ糖	250ml		
デキサート	6.6mg	2h	
オキサリプラチン	182mg		(温巻法) 穿刺部位の十分な観察
↓			
5) 生理食塩液	50ml	フラッシュ	
day 1 (夕食後開始) ~ day15 (朝食後まで)			
Rp) S-1		BSA (m ²)	
	(20)	6錠/分2	>1.5
	(25)	4錠/分2	1.25-1.5
	(20)	4錠/分2	<1.25

投与開始基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 ≥ 3000 好中球 ≥ 1500 ・ Plt ≥ 75000 AST/ALT ≤ 100 (肝転移 ≤ 200) Cr < 1.5 下痢、口内炎 ≤ G1 神経障害 ≤ G2
S-1クール休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 < 1000 ・ Plt < 75000 AST/ALT ≥ 100 Cr ≥ ULN × 1.5 下痢 ≥ G2 ・ 粘膜炎/口内炎 ≥ G2
S-1クール内再開基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 ≥ 1000 ・ Plt ≥ 75000 Cr < ULN × 1.5 下痢 ≤ G1 ・ 粘膜炎/口内炎 ≤ G1

S-1減量		
BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg
オキサリプラチン減量基準		
	(-1)	(-2)
130mg/m ²	100mg/m ²	75mg/m ²

デカドロンはday2の朝から
S-1は当日夕から
心機能測定は12週間に1回を目安

オキサリプラチン減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 75000 またはday22に75000以上100000未満の場合 FN
S-1休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 50000 FN 下痢 ≥ G3以上

化学療法計画書

治療法名	SOX130/HER (アレキター)		
コース数		コース目	
治療法コード	胃がん		
患者氏名		♂	年齢
患者ID		生年月日	年 月 日
部署		主治医	科 Dr

開始予定日

治療内容	Day	1	8	15	22
	治療予定日	1/0	/	/				
トラスツズマブ	6 mg/kg	↓						
オキサリプラチン	130 mg/m ²	↓						
エスワン	60 mg/回							→(朝・夕食後)
デキサート	13.2 mg	↓						
パロノセトロン	0.75mg	↓						
ファモチジン	1A							
デカドロン	8mg		↓↓↓					
レスタミン	50mg	↓						

治療開始日		治療 間隔	3週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.4 m ²
eGFR	79 ml/min	eGFR/BSA	64 ml/min		

Day1	
1) 生理食塩液	50ml 血管確保
↓	
2) 生理食塩液	250ml
トラスツズマブ	300mg 30分
↓	
3) パロノセトロン	0.75mg 30分
デキサート	6.6mg
ファモチジン	1A
↓	
4) 5%ブドウ糖	250ml
デキサート	6.6mg
オキサリプラチン	182mg 2h
↓	(温罨法) 穿刺部位の十分な観察
5) 生理食塩液	50ml フラッシュ

投与開始基準
・白血球 ≥ 3000
・好中球 ≥ 1500 ・Plt ≥ 75000
・AST/ALT ≤ 100 (肝転移 ≤ 200)
・Cr < 1.5
・下痢、口内炎 ≤ G1
・神経障害 ≤ G2
・HER2過剰発現あり
・LVEF50%以上
S-1クール内休薬基準
・好中球 < 1000 ・Plt < 75000
・AST/ALT ≥ 100
・Cr ≥ ULN × 1.5
・下痢 ≥ G2 ・粘膜炎/口内炎 ≥ G2
S-1クール内再開基準
・好中球 ≥ 1000 ・Plt ≥ 75000
・Cr < ULN × 1.5
・下痢 ≤ G1 ・粘膜炎/口内炎 ≤ G1

day 1(夕食後開始) ~ day15 (朝食後まで)			
Rp) S-1		BSA (m ²)	
(20)	6錠/分 2	>1.5	
(25)	4錠/分 2	1.25-1.5	
(20)	4錠/分 2	<1.25	

S-1減量		
BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	00mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg
オキサリプラチン減量基準		
0	(-1)	(-2)
130mg/m ²	00mg/m ²	75mg/m ²

デカドロンはday2の朝から
S-1は当日夕から

オキサリプラチン減量基準
・白血球 < 1000
・好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合)
・血小板 < 75000
またはday22に75000以上100000未満の場合
・FN
S-1休薬基準
・白血球 < 1000
・好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合)
・血小板 < 50000
・FN
・下痢 ≥ G3以上

化学療法計画書

治療法名	トラスツズマブ/S-1		
コース数		コース目	
治療法コード	胃がん		
患者氏名		♂	年齢
患者ID		生年月日	年 月 日
部署		主治医	科 Dr
開始予定日	Day 1 8 15 22		
治療内容	治療予定日 1/0 / /		
トラスツズマブ エスワン	6 mg/kg 60 mg/回	↓ →(朝・夕食後)	
治療開始日		治療 間隔	3週毎 予定コース コース
身長	150 cm	体重	50 kg BSA 1.4 m ²
eGFR	79 ml/min	eGFR/BSA	64 ml/min

Day1	
1) 生理食塩液 50ml	血管確保
↓	
2) 生理食塩液 250ml トラスツズマブ 300mg	30分 インフュージョンリアクションに注意
↓	
3) 生理食塩液 50ml	フラッシュ

day 1(夕食後開始) ~ day15 (朝食後まで)			
Rp) S-1		BSA (m ²)	
	(20)	6錠/分 2	>1.5
	(25)	4錠/分 2	1.25-1.5
	(20)	4錠/分 2	<1.25

S-1減量		
BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg
オキサリプラチン減量基準		
0	(-1)	(-2)
130mg/m ²	100mg/m ²	75mg/m ²

投与開始基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 ≥ 3000 好中球 ≥ 1500 ・ Plt ≥ 75000 AST/ALT ≤ 100 (肝転移 ≤ 200) Cr < 1.5 下痢、口内炎 ≤ G1 神経障害 ≤ G2 LVEF 50%以上
S-1クール内休業基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 < 1000 ・ Plt < 75000 AST/ALT ≥ 100 Cr ≥ ULN × 1.5 下痢 ≥ G2 ・ 粘膜炎/口内炎 ≥ G2
S-1クール内再開基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 ≥ 1000 ・ Plt ≥ 75000 Cr < ULN × 1.5 下痢 ≤ G1 ・ 粘膜炎/口内炎 ≤ G1

S-1は当日夕から
心機能測定は12週間に1回を目安

化学療法計画書

治療法名	G-SOX 130		
コース数		コース目	
治療法コード	胃がん		
患者氏名		♂	年齢
患者ID		生年月日	年 月 日
部署		主治医	科 Dr

開始予定日

治療内容	Day 1 8 15 22
治療予定日	1/0 / /
オキサリプラチン 130 mg/m ² エスワン 60 mg/回	↓ → (朝・夕食後)
デキサート 6.6mg パロノセトロン 0.75mg デカドロン 8mg	↓ ↓ ↓↓↓
治療開始日	治療 間隔 3週毎 予定コース コース
身長 150 cm 体重 50 kg BSA 1.4 m ²	
eGFR 79 ml/min eGFR/BSA 64 ml/min	

Day1	
1) パロノセトロン 0.75mg	30分
↓	
2) 5%ブドウ糖 250ml デキサート 6.6mg オキサリプラチン 182mg	2h (温罨法) 穿刺部位の十分な観察
↓	
3) 生理食塩液 50ml	フラッシュ

day 1 (夕食後開始) ~ day15 (朝食後まで)		
Rp) S-1	BSA (m ²)	
(20)	6錠/分2	>1.5
(25)	4錠/分2	1.25-1.5
(20)	4錠/分2	<1.25

投与開始基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 ≥ 3000 好中球 ≥ 1500 ・ Plt ≥ 75000 AST/ALT ≤ 100 (肝転移 ≤ 200) Cr < 1.5 下痢、口内炎 ≤ G1 神経障害 ≤ G2
S-1クール内休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 < 1000 ・ Plt < 75000 AST/ALT ≥ 100 Cr ≥ ULN × 1.5 下痢 ≥ G2 ・ 粘膜炎/口内炎 ≥ G2
S-1クール内再開基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 ≥ 1000 ・ Plt ≥ 75000 Cr < ULN × 1.5 下痢 ≤ G1 ・ 粘膜炎/口内炎 ≤ G1

S-1減量		
BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg
オキサリプラチン減量基準		
0	(-1)	(-2)
130mg/m ²	100mg/m ²	75mg/m ²

オキサリプラチン減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 75000 またはday22に75000以上100000未満の場合 FN
S-1減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 50000 FN 下痢 ≥ G3以上

デカドロンはday2の朝から
S-1は当日夕から

化学療法計画書

治療法名	G-SOX 130 (アレルギー)		
コース数		コース目	
治療法コード	胃がん		
患者氏名		♂	年齢
患者ID		生年月日	年 月 日
部署		主治医	科 Dr

開始予定日

治療内容	Day 1 8 15 22
治療予定日	1/0 / /

オキサリプラチン	130 mg/m ²	↓	→(朝・夕食後)
エスワン	60 mg/回		
デキサート	13.2mg	↓ (6.6mg × 2)	
パロノセトロン	0.75mg	↓	
デカドロン	8mg	↓↓↓	
ファモチジン	1A		
レスタミン	5錠		

治療開始日		治療 間隔	3週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.4 m ²
eGFR	79 ml/min	eGFR/BSA	64 ml/min		

Day1		
1) パロノセトロン	0.75mg	30分
デキサート	6.6mg	
ファモチジン	1A	1) 開始と共にレスタミン内服
↓		
2) 5%ブドウ糖	250ml	
デキサート	6.6mg	2h
オキサリプラチン	182mg	(温番法) 穿刺部位の十分な観察
↓		
3) 生理食塩液	50ml	フラッシュ

投与開始基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 ≥ 3000 好中球 ≥ 1500 AST/ALT ≤ 100 (肝転移 ≤ 200) Cr < 1.5 下痢、口内炎 ≤ G1 神経障害 ≤ G2
S-1クール内休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 < 1000 AST/ALT ≥ 100 Cr ≥ ULN × 1.5 下痢 ≥ G2
S-1クール内再開基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 ≥ 1000 Cr < ULN × 1.5 下痢 ≤ G1

day 1 (夕食後開始) ~ day15 (朝食後まで)		
Rp) エスワン		BSA (m ²)
(20)	6錠/分2	>1.5
(25)	4錠/分2	1.25-1.5
(20)	4錠/分2	<1.25

S-1減量		
BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg
オキサリプラチン減量基準		
0	(-1)	(-2)
130mg/m ²	100mg/m ²	75mg/m ²

オキサリプラチン減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 75000 またはday22に75000以上100000未満の場合 FN
S-1減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 50000 FN 下痢 ≥ G3以上

デカドロンはday2の朝から
S-1は当日夕から

化学療法計画書

治療法名		アブラキサン																			
コース数		コース目																			
腫瘍種		非小細胞肺癌 胃がん																			
患者名							♂		年齢												
患者ID							生年月日														
部署							主治医														
開始予定日																					
治療内容		Day		1	2	3	4	5	6	7	8	...	15	...	22	...	29	...			
予定日				1/0							1/7						1/14		1/21		1/28
アブラキサン 100 mg/m ²				↓							↓						↓				↓
治療開始日						治療間隔		4 週毎		予定コース数		コース									
身長		160	cm	体重		40.1	kg	BSA		1.32		m ²									
eGFR		79	ml/min	eGFR/BSA		60	ml/min														

投与開始基準 (day1)	
好中球 ≥ 1500	
Plt ≥ 10万 Hb ≥ 9.0	
AST/ALT ≤ ULN × 2.5	
T-Bil ≤ 1.5、Cr ≤ 1.5	
(T-Bil高値の場合減量考慮)	
末梢神経障害 ≤ G2	

・末梢神経障害 ≥ G3 →アブラキサンのみ1段階減量	
--------------------------------	--

減量目安	アブラキサン
通常量	100mg/m ²
1段階減量	80mg/m ²
2段階減量	60mg/m ²

Day 1、8、15

投与可否の基準 (Day 8、15)	
・好中球 ≥ 1000	
・Plt > 50,000	
・末梢神経障害 ≤ G2	

インラインフィルターを使用しない	
1) 生理食塩液	50ml 血管確保
↓	
2) 生理食塩液	50ml 30分
アブラキサン	132mg 液量は (mg ÷ 5) ml
↓	
3) 生理食塩液	50ml フラッシュ

アブラキサンの調製方法	
生食50mlのボトルを空にする	
抜いた生食はアブラキサンの溶解に用いる	
1V=100mgを生食20mlで溶解し、	
5mg/ml溶液とする	
そこから必要量をとって、	
空になった生食ボトルに戻す	

化学療法計画書

治療法名	アブラキサン/サイラムザ					
コース数		コース目				
腫瘍種	胃がん					
患者名		♂	年齢			
患者ID		生年月日				
部署		主治医	科	Dr		
開始予定日						
治療内容	Day	1	8	15	22	29
	予定日	1/0	1/7	1/14	1/21	1/28
アブラキサン	100 mg/m ²	↓	↓	↓		↓
サイラムザ	8 mg/kg	↓		↓		↓
レスタミン	5錠	↓		↓		↓
治療開始日		治療間隔		4週毎	予定コース数	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.40 m ²	
eGFR	79 ml/min	eGFR/BSA	64 ml/min			

投与開始基準
好中球 ≥ 1500
Plt ≥ 10万 Hb ≥ 9.0
AST/ALT ≤ ULN × 2.5
T-Bil ≤ 1.5、Cr ≤ 1.5
(T-Bil高値の場合減量考慮)
末梢神経障害 ≤ G2

投与可否基準 (Day8、15)
・好中球 ≥ 1000
・Plt > 50,000
・末梢神経障害 ≤ G2
サイラムザの投与基準
尿蛋白 : 100mg/dl以下
サイラムザの有害事象G2未満

サイラムザの投与基準
尿蛋白 : 100mg/dl以下
サイラムザの有害事象G2未満

Day 8
インラインフィルターを使用しない
1) 生理食塩液 50ml 血管確保
↓
2) 生理食塩液 50ml 30分
アブラキサン 140mg 液量は (mg ÷ 5) ml
↓
3) 生理食塩液 50ml フラッシュ

Day 1、15
インラインフィルター使用
1) 生理食塩液 50ml 30分
↓
2) 生理食塩液 250ml 1回目は60分
サイラムザ 400mg 忍容性あれば
↓
3) 生理食塩液 50ml 以後30分で
↓
4) 生理食塩液 50ml 全開で
↓
5) 生理食塩液 50ml ルート確保
↓
インラインフィルターを使用しない
6) 生理食塩液 50ml 30分
アブラキサン 140mg 液量は (mg ÷ 5) ml
↓
7) 生理食塩液 50ml フラッシュ

インフュージョンリアクション出現時
⇒一旦中止
G1, 2の場合は対症療法後状況に応じて減速も考慮
G3, 4 は再投与しない

尿蛋白
100mg/dl以下でRAM投与
300mg/dl中止
減量 8→6→5mg/kg

高血圧
G3未満 無症候性の場合⇒サイラムザ継続で降圧剤開始
症状あり⇒症状消失までサイラムザ中断で降圧薬継続
コントロール不良でサイラムザを2回中断するとき6mg/kg
更に延期が必要な場合、5mg/kgに減量
G3 無症状⇒強力な降圧剤を併用しサイラムザ継続
2週間こえてG3の場合降圧剤は継続、サイラムザ中止
2回以上中断時は6mg/kg、更に投与延期5mg/kg

・末梢神経障害 ≥ G3
→アブラキサンのみ1段階減量

減量基準	アブラキサン
通常量	100mg/m ²
1段階減量	80mg/m ²
2段階減量	60mg/m ²

アブラキサンの調製方法
生食50mlのボトルを空にする
抜いた生食はアブラキサンの溶解に用いる
1V=100mgを生食20mlで溶解し、
5mg/ml溶液とする
そこから必要量をとって、
空になった生食ボトルに戻す

化学療法計画書

治療法名		サイラムザ					
コース数		コース目					
腫瘍種		胃がん					
患者名				♂	年齢		
開始予定日		患者ID		生年月日			
		部署		主治医	科	Dr	
治療内容	Day	1 8 15 22 29					
	予定日	1/0		1/7	1/14	1/21	1/28
サイラムザ	8 mg/kg	↓			↓		↓
レスタミン	5錠	↓			↓		↓
治療開始日		治療間隔			予定コース数	コース	
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.40 m ²		
eGFR	79 ml/min	eGFR/BSA	64 ml/min				

開始基準 好中球 ≥ 1000 血小板 ≥ 75000 尿蛋白 : 100mg/以下 サイラムザの有害事象G2未満
--

Day 1、15
インラインフィルターを使用

- | | | | |
|----------|-------|---------|----------------------------|
| 1) 生理食塩液 | 50ml | 30分 | 1) 開始と共にレスタミン5錠服用 |
| ↓ | | | |
| 2) 生理食塩液 | 250ml | 1回目は60分 | 忍容性あれば
(全量250ml) 以後30分で |
| サイラムザ | 400mg | | |
| ↓ | | | |
| 3) 生理食塩液 | 50ml | フラッシュ | |

インフュージョンリアクション出現時 ⇒一旦中止 G1, 2の場合は対症療法後状況に応じて減速も考慮 G3, 4 は再投与しない

尿蛋白 100mg/dl以下でRAM投与 300mg/dl中止 減量 8→6→5mg/kg

高血圧 G3未満 無症候性の場合⇒サイラムザ継続で降圧剤開始 症状あり⇒症状消失までサイラムザ中断で降圧薬継続 コントロール不良でサイラムザを2回中断するとき6mg/kg 更に延期が必要な場合、5mg/kgに減量
G3 無症状⇒強力な降圧剤を併用しサイラムザ継続 2週間こえてG3の場合降圧剤は継続、サイラムザ中止 2回以上中断時は6mg/kg、更に投与延期5mg/kg

化学療法計画書

治療法名		パクリタキセル/サイラムザ			
コース数		コース目			
腫瘍種	胃がん				
患者名		♂	年齢		
患者ID			生年月日		
部署			主治医	科	Dr

開始予定日						
治療内容	Day	1	8	15	22	29
	予定日	1/0	1/7	1/14	1/21	1/28
パクリタキセル	80 mg/m ²	↓	↓	↓		↓
サイラムザ	8 mg/kg	↓	↓	↓		↓
ファモチジン	1A	↓	↓	↓		↓
デキサート	6.6mg	↓	↓	↓		↓
レスタミン	50mg	↓	↓	↓		↓
治療開始日		治療間隔		4週毎	予定コース数	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.40 m ²	

投与開始基準 (day1)
<ul style="list-style-type: none"> ・好中球>1500 ・Plt>10万 ・T-Bil ≤ULN × 1.5 ・AST/ALT ≤ULN × 3 (肝転移 × 5) ・Cr ≤ULN × 1.5 または CCr ≥ 50 ・神経毒性G2以下 ・他のG2以上の非血液毒性なし
サイラムザの投与基準
尿蛋白: 100mg/dl 以下
サイラムザの有害事象G2未満

投与可否基準 (day8, 15)
<ul style="list-style-type: none"> ・好中球>1000 ・Plt>75,000 ・AST/ALT ≤ULN × 3 (肝転移 × 5) ・T-bil ≤ULN × 1.5 ・神経毒性G2以下 ・他のG2以上の非血液毒性なし
サイラムザの投与基準
尿蛋白: 100mg/dl 以下
サイラムザの有害事象G2未満

Day 1・15	
インラインフィルターを使用	
1) 生理食塩液 50ml	15分
ファモチジン 1A	
デキサート 6.6mg	
点滴中にレスタミン 5錠内服	
↓	
2) 生理食塩液 100ml	30分
↓	
3) 生理食塩液 250ml	1回目は60分 忍容性あれば 以後30分で
サイラムザ 400mg	
(全量250ml)	
4) 生理食塩液 50ml	全開で
↓	
5) 5%ブドウ糖 250ml	60分
パクリタキセル 112mg	
↓	
6) 生理食塩液 50ml	フラッシュ

Day 8	
インラインフィルターを使用	
1) 生理食塩液 50ml	15分
ファモチジン 1A	
デキサート 6.6mg	
点滴中にレスタミン 5錠内服	
↓	
2) 生理食塩液 100ml	30分
↓	
3) 5%ブドウ糖 250ml	60分
パクリタキセル 112mg	
↓	
6) 生理食塩液 50ml	フラッシュ

パクリタキセル投与中も、アレルギー症状の出現を嚴重にチェック
アルコールに弱い人・お酒を飲めない人への投与時、注意

インフュージョンリアクション出現時
⇒一旦中止
G1, 2の場合は対症療法後状況に応じて減速も考慮
G3, 4 は再投与しない
尿蛋白
100mg/dl 以下でRAM投与
300mg/dl 中止
減量 8→6→5mg/kg

パクリタキセル減量基準
G4の血液毒性またはG3の非血液毒性 ⇒次コースからPTX10mg/m ² 減量
毒性が続くまたは再発 更に10mg/m ² 減量
60mg/m ² 未満に減量する必要がでたとき 中止

高血圧
G3未満 無症候性の場合⇒サイラムザ継続で降圧剤開始 症状あり⇒症状消失までサイラムザ中断で降圧剤継続
コントロール不良でサイラムザを2回中断するとき6mg/kg 更に延期が必要な場合、5mg/kgに減量
G3 無症状⇒強力な降圧剤を併用しサイラムザ継続 2週間こえてG3の場合降圧剤は継続、サイラムザ中止 2回以上中断時は6mg/kg、更に投与延期5mg/kg

化学療法計画書

治療法名	トラスツズマブ+FP800/80		
コース数	1	コース目	初回
腫瘍種	胃がん		
氏名		性別	♂
患者ID		生年月日	
部署		主治医	

開始予定日

治療内容	Day	1	2	3	4	5	6	7	8	15	22	29
	予定日	1/0							1/7	1/14	1/21	1/28
トラスツズマブ	8 mg/kg	↓									↓	
5-FU	800 mg/m2	↓↓↓↓↓									↓↓↓↓↓	
シスプラチン	80 mg/m2	↓									↓	
パロノセトロン	0.75mg	↓									↓	
デキサート	9.9mg	↓									↓	
デキサート	6.6mg		↓↓↓								↓↓↓	
ホスアプレピタント	150mg		↓ (抗がん剤開始 1時間前)								↓ (抗がん剤開始 1時間前)	
オランザピン	5mg	↓↓↓↓↓									↓↓↓↓↓	

治療開始日	182.6	cm	体重	77.7	kg	3週間	予定コース数		コース
eGFR	79	ml/min	eGFR/BSA	68	ml/min	BSA	1.50	m2	

Day 1	
投与開始基準	
<ul style="list-style-type: none"> HER2過剰発現あり LVEF50%以上 WBC>3000, かつ好中球>1500 Plt>100,000 AST/ALT<100, T-bil<1.8, Cr<1.2 CCr60以上 G3以上の非血液毒性なし 	

- 1) 生理食塩液 50ml 血管確保
- ↓
- 2) 生理食塩液 250ml
- トラスツズマブ 622mg 90分

メイン400ml/hで投与

- 3) 生理食塩液 500ml 75分
- 3) 開始直後に
 - 4) 生理食塩液 100ml 30分
 - ホスアプレピタント 150mg
- 4) 終了直後に
 - 5) パロノセトロン 0.75mg 30分
 - デキサート 9.9mg
- 6) 生理食塩液 総量400ml 1h
- シスプラチン 120mg
- 6) 終了直後に
 - 7) ラシックス 20mg 側注
- 8) トリフリード 1000ml 24h持続点滴
- 5-FU 1200mg
- 8) 開始とともに
 - 9) 生理食塩液 1000ml 1000ml
 - KCL 1キット 150分
 - 硫酸マグネシウム1A

- | Day 2-4 | |
|------------------|---------|
| 1) 生理食塩液 50ml | 全開 |
| デキサート 6.6mg | |
| ↓ | |
| 2) トリフリード 1000ml | 24h持続点滴 |
| 5-FU 1200mg | |

翌日まで

- | Day 5 | |
|------------------|---------|
| 1) トリフリード 1000ml | 24h持続点滴 |
| 5-FU 1200mg | |
| ↓ | |
| 2) 生理食塩液 50ml | フラッシュ |

2コース目の減量基準
<ul style="list-style-type: none"> WBC<1000, Plt<25000 発熱性好中球減少 →CDDP 60, 5FU 600に減量 Cr>1.5 →CDDP 60に減量

infusion reactionに注意 (トラスツズマブ)
 心機能モニタリング12週毎
 1kg以上増えたとき医師に報告。利尿剤の相談
 オランザピン5mgはday 1の夕から (糖尿病の患者はオランザピン禁忌)
 (毎日1日1回体重測定)

化学療法計画書

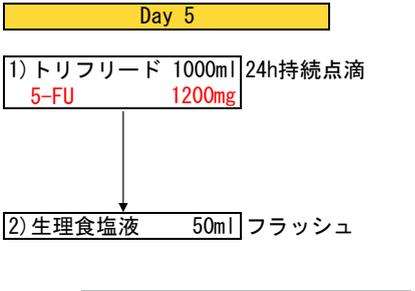
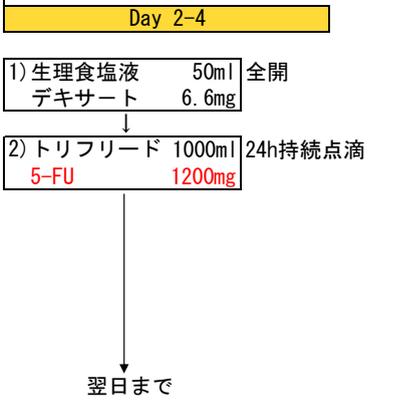
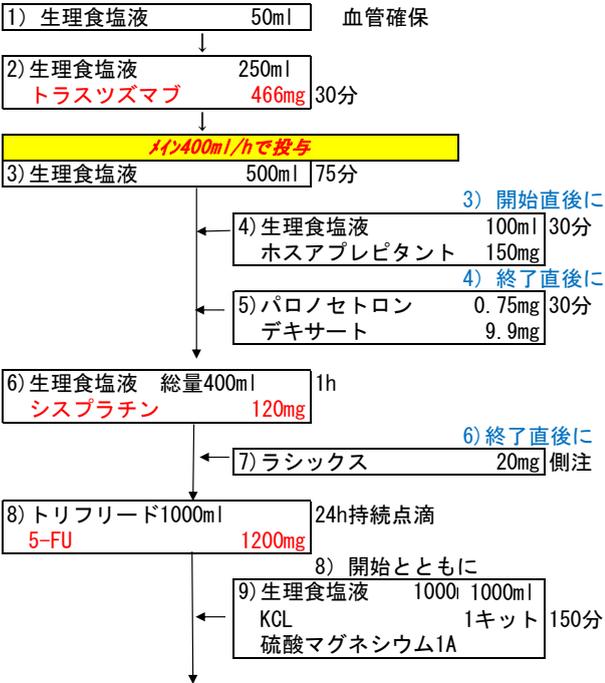
治療法名	トラスツズマブ+FP800/80		
コース数	1	コース目	2回目以降
腫瘍種	胃がん		
氏名		性別	♂
患者ID		生年月日	
部署		主治医	

開始予定日

治療内容	Day	1	2	3	4	5	6	7	8	...	15	...	22	...	29	...
	予定日	1/0							1/7				1/14		1/21	1/28
トラスツズマブ	6 mg/kg	↓													↓	
5-FU	800 mg/m2	↓↓↓↓↓													↓↓↓↓↓	
シスプラチン	80 mg/m2	↓													↓	
パロノセトロン	0.75mg	↓													↓	
デキサート	9.9mg	↓													↓	
デキサート	6.6mg	↓↓↓													↓↓↓	
ホスアプレピタント	150mg	↓ (抗がん剤開始 1時間前)													↓ (抗がん剤開始 1時間前)	
オランザピン	5mg	↓↓↓↓↓													↓↓↓↓↓	

治療開始日	182.6	cm	体重	77.7	kg	BSA	1.50	m2
eGFR	79	ml/min	eGFR/BSA	68	ml/min			

Day 1	
投与開始基準	
<ul style="list-style-type: none"> HER2過剰発現あり LVEF50%以上 WBC>3000, かつ好中球>1500 Plt>100,000 AST/ALT<100, T-bil<1.8, Cr<1.2 CCr60以上 G3以上の非血液毒性なし 	



2コース目の減量基準
<ul style="list-style-type: none"> WBC<1,000, Plt<25,000 発熱性好中球減少 →CDDP 60, 5FU 600に減量 Cr>1.5 →CDDP 60に減量

心機能モニタリング12週毎
1kg以上増えたとき医師に報告。利尿剤の相談
オランザピン5mgはday 1の夕から (糖尿病の患者はオランザピン禁忌)
(毎日1日1回体重測定)

化学療法計画書

治療法名		トラスツズマブ/カペシタビン			
コース数		コース目			
腫瘍種		胃がん			
患者名				♂	年齢
患者ID		生年月日			
部署		主治医		科 Dr	
開始予定日					
治療内容	Day	1 8		15 22 29	
	予定日	1/0		1/7	
トラスツズマブ	6 mg/kg	↓ →			
カペシタビン	2000 mg/m2				
治療開始日	治療間隔		4週毎	予定コース数	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.40 m2
eGFR	79 ml/min	eGFR/BSA	64 ml/min		

Day 1	
<ul style="list-style-type: none"> ・ WBC ≥ 3000 または 好中球 ≥ 1500 ・ Plt ≥ 10万 Hb ≥ 9.0 ・ AST/ALT ≤ 2.5 × ULN ・ T-Bil < 1.5 × ULN ・ Cr < 1.5 × ULN 	
カペシタビン <small>(CCr < 30未満は禁忌、30 ≤ CCr ≤ 50は75%量)</small>	

- 1) 生理食塩液 50ml 血管確保
↓
- 2) 生理食塩液 250ml 30分
トラスツズマブ 300mg
↓
- 3) 生理食塩液 50ml フラッシュ

カペシタビンはday1の夕から
心機能モニタリング12週毎

中止基準				
<ul style="list-style-type: none"> ・ NYHA III/IVに該当する心筋障害が発現した場合 ・ 基準値より低値になった場合 ⇒ トラスツズマブ中止 				
		カペシタビン減量基準		
		1回目	2回目	3回目
G3好中球減少 G3血小板減少	休薬 (最大14日間) G0-1になるまで	減量不要	減量-1	減量-2
G2 (上記外)		減量不要 or 減量-1	減量-1	減量-2
G3 (上記外)		減量-1	減量-2	中止
G4 (上記外)		事象毎に判断		中止

参考：カペシタビン投与量		
体表面積	1回用量	
1.36m2未満	1200mg (4錠)	
1.36m2~1.66m2未満	1500mg (5錠)	
1.66m2~1.96m2未満	1800mg (6錠)	
1.96m2以上	2100mg (7錠)	
カペシタビン減量時投与量		
体表面積	1回用量	
	減量1段階	減量2段階
1.41m2未満	900mg	600mg
1.41m2~1.51m2未満	1200mg	900mg
1.51m2~1.81m2未満		
1.81m2~2.11m2未満	1500mg	1200mg
2.11m2以上		

化学療法計画書

治療法名	XP/トラスツズマブ		
コース数	1	コース目	初回
腫瘍種	胃がん		
氏名		性別	♂
患者ID		生年月日	
部署		主治医	科
			Dr

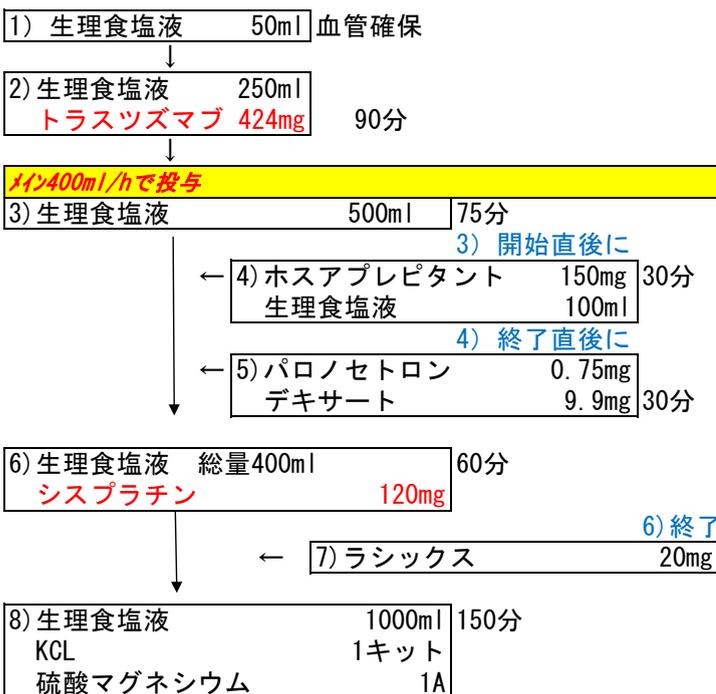
開始予定日

治療内容	Day	1	2	3	4	5	6	7	8	...	15	...	22	...	29	...
	予定日	1/0							1/7		1/14		1/21		1/28	
トラスツズマブ	8 mg/kg	↓											↓			
シスプラチン	80 mg/m ²	↓											↓			
カペシタビン	1000 mg/m ²	→											→			
パロノセトロン	0.75mg	↓											↓			
デキサート	9.9mg	↓											↓			
ホスアプレピタント	150mg	↓ (抗がん剤開始 1時間前)														
デカドロン	8mg	↓↓↓											↓↓↓			
オランザピン	5mg	↓↓↓											↓↓↓			
治療開始日																
身長	160	cm	体重	53	kg	BSA	1.50	m ²	治療間隔	3週毎	予定コース数					コース
eGFR	79	ml/min	eGFR/BSA													

Day 1

投与開始基準
・ WBC>3000, かつ好中球>1500
・ Plt>100,000
・ AST/ALT<100, T-Bil<1.8, Cr<1.2
CDDPはCCr 60未満では減量考慮
カペシタビン
(CCr<30未満は禁忌、30≤CCr≤50は75%量)
・ G3以上の非血液毒性なし
・ HER2過剰発現あり
・ LVEF50%以上

参考：カペシタビン投与量		
体表面積	1回用量	
1.36m ² 未満	1200mg (4錠)	
1.36m ² ~1.66m ² 未満	1500mg (5錠)	
1.66m ² ~1.96m ² 未満	1800mg (6錠)	
1.96m ² 以上	2100mg (7錠)	
カペシタビン減量時投与量		
体表面積	1回用量	
	減量1段階	減量2段階
1.41m ² 未満	900mg	600mg
1.41m ² ~1.51m ² 未満	1200mg	900mg
1.51m ² ~1.81m ² 未満	1500mg	
1.81m ² ~2.11m ² 未満		
2.11m ² 以上		



infusion reactionに注意 (トラスツズマブ)

心機能モニタリング12週毎

1kg以上増えたとき医師に報告。利尿剤の相談

カペシタビンはday 1の夕から

オランザピン5mgはday 1の夕から (糖尿病の患者はオランザピン禁忌)

day1からの飲水指導

デカドロンはday 2の朝から

化学療法計画書

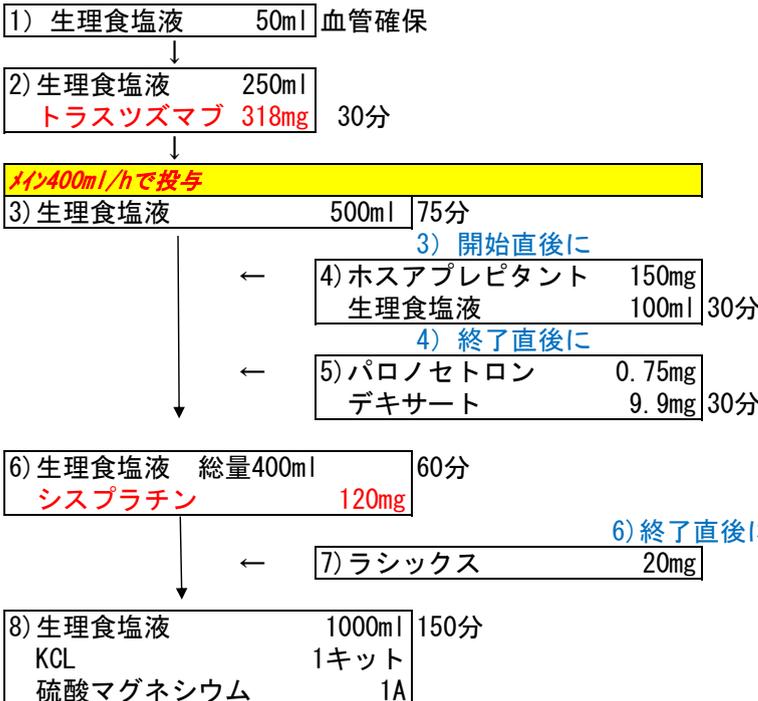
治療法名	XP/トラスツズマブ		
コース数	1	コース目	2回目以降
腫瘍種	胃がん		
氏名		♂	年齢
患者ID	生年月日		
部署		主治医	科
			Dr

開始予定日

治療内容	Day	1	2	3	4	5	6	7	8	...	15	...	22	...	29	...
	予定日	1/0							1/7		1/14		1/21		1/28	
トラスツズマブ	6 mg/kg	↓											↓			
シスプラチン	80 mg/m ²	↓											↓			
カペシタビン	1000 mg/m ²	→											→			
パロノセトロン	0.75mg	↓											↓			
デキサート	9.9mg	↓											↓			
ホスアプレピタント	150mg	↓	(抗がん剤開始 1 時間前)											↓		
デカドロン	8mg		↓	↓	↓								↓	↓	↓	
オランザピン	5mg		↓	↓	↓	↓							↓	↓	↓	↓
治療開始日																
身長	160	cm	体重	53	kg	BSA	1.50	m ²	治療間隔	3週毎	予定コース数		コース			
eGFR	79	ml/min	eGFR/BSA	68	ml/min											

Day 1

投与開始基準
<ul style="list-style-type: none"> WBC>3,000, かつ好中球>1,500 Plt>100,000 AST/ALT<100, T-Bil<1.8, Cr<1.2 <p>CDDPはCCr 60未満では減量考慮) カペシタビン (CCr<30未満は禁忌、30≤CCr≤50は75%量) ・G3以上の非血液毒性なし</p>



	カペシタビン投与	カペシタビン減量基準		
		1回目	2回目	3回目
G3好中球減少 G3血小板減少	休薬 (最大14日間) G0-1になるまで	減量不要	減量-1	減量-2
G2 (上記外)		減量不要 or減量-1	減量-1	減量-2
G3 (上記外)		減量-1	減量-2	中止
G4 (上記外)		事象毎に判断		中止

参考：カペシタビン投与量		
体表面積	1回用量	
1.36m ² 未満	1200mg (4錠)	
1.36m ² ~1.66m ² 未満	1500mg (5錠)	
1.66m ² ~1.96m ² 未満	1800mg (6錠)	
1.96m ² 以上	2100mg (7錠)	
カペシタビン減量時投与量		
体表面積	1回用量	
	減量1段階	減量2段階
1.41m ² 未満	900mg	600mg
1.41m ² ~1.51m ² 未満	1200mg	900mg
1.51m ² ~1.81m ² 未満	1500mg	
1.81m ² ~2.11m ² 未満		1500mg
2.11m ² 以上	1500mg	

心機能モニタリング12週毎

1kg以上増えたとき医師に報告。利尿剤の相談

カペシタビンはday 1の夕から

オランザピン5mgはday 1の夕から (糖尿病の患者はオランザピン禁忌)

day1からの飲水指導

デカドロンはday 2の朝から

化学療法計画書

治療法名	MTX+5FU			
コース数		コース目		
腫瘍種	胃がん			
患者名		♂	年齢	
患者ID		生年月日		
部署		主治医	科	

開始予定日

治療内容	Day	1	2	3	4	5	6	7	8	...	15	...	22	...	29
	予定日	1/0							1/7		1/14		1/21		1/28
メソトレキセート 100 mg/m ²		↓							↓		↓		↓		↓
5FU 600 mg/m ²		↓							↓		↓		↓		↓
ロイコボリン 15mgx3		↓↓							↓↓		↓↓		↓↓		↓↓
ダイアモックス 250mg		↓							↓		↓		↓		↓
治療開始日															
治療間隔											4週毎		予定コース数		コース
身長	150	cm	体重	50	kg	BSA	1.40	m ²							
eGFR	79	ml/min	eGFR/BSA				64	ml/min							

Day 1、8、15、22

投与可否の基準
・ WBC>3,000, かつ好中球>2,000
・ Plt>100,000
・ 下痢なし
・ PS 0-2

1) ソリタT3	500ml	3h
メイロン	40ml	



毎週投与翌日から翌々日

- ロイコボリン 5A(15mg) 静注
 - ロイコボリン 3錠(15mg) 経口
- メソトレキセートの開始24時間後から6時間ごとに計5回

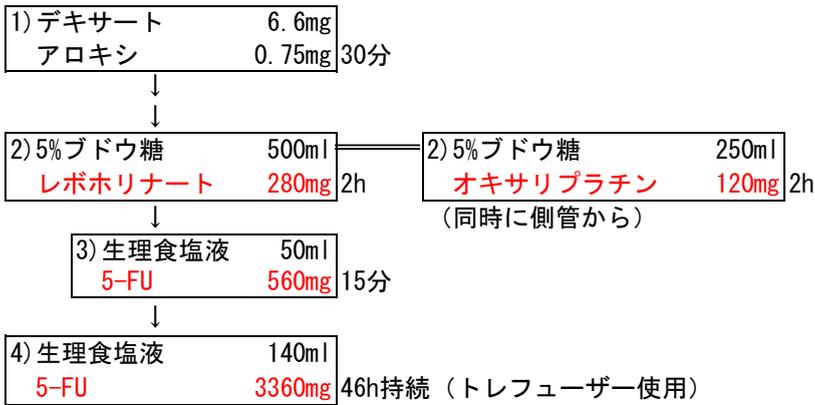
追加指示 (主治医に確認)

- MTX血中濃度測定
MTX投与24時間後にヘパ血5ml採血
1x10⁻⁶mol/L未満を確認
それ以上のときは48時間後に再検
再検でも1x10⁻⁶mol/L以上のとき
 ロイコボリン15mg 静注または経口
 メイロン 2A+生食100ml点滴
- 利尿剤投与
Day 1の尿量1000ml以下のとき、
 ダイアモックス 500mg+生食20ml 静注

化学療法計画書

治療法名		mFOLFOX6			
コース数		コース目			
腫瘍種	大腸がん/胃がん				
患者氏名		♂	年齢		
開始予定日	患者ID	生年月日		年	月 日
	部署	主治医		科	Dr
治療内容	Day	1	8	15	
	予定日	1/0	/	/	
レボホリナート	200 mg/m ²	↓			
5-FU	400 mg/m ²	↓			
5-FU	2400 mg/m ²	↓			
オキサリプラチン	85 mg/m ²	↓			
デキサート	6.6mg	↓			
アロキシ	0.75mg	↓			
デカドロン	8mg	↓↓↓			
治療開始日	年	月	日	治療	間隔
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.4 m ²
eGFR	60 ml/min	eGFR/BSA	49 ml/min		

Day1-2



投与開始基準
1. 好中球1500以上
2. 血小板7.5万以上
3. AST/ALT < 2.5 × ULN
4. T-Bil < 1.5 × ULN
5. Cr: 1.2未満

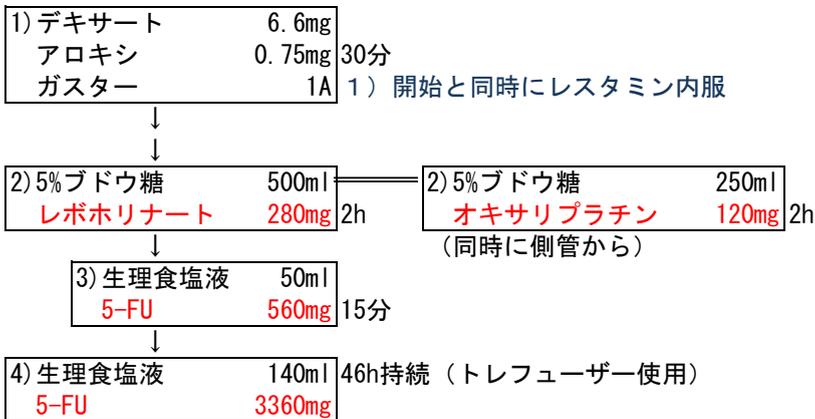
減量基準
1. 好中球 500未満
2. 血小板5万未満
5-FUを20%減量
オキサリプラチン65/m ² に減量

デカドロンはday2の朝から

化学療法計画書

治療法名		mFOLFOX6 (アレルギー)					
コース数		コース目					
腫瘍種	大腸がん/胃がん						
患者氏名					♂	年齢	
開始予定日	患者ID	生年月日		年	月	日	
	部署	主治医		科		Dr	
治療内容	Day	1 8		15			
	予定日	1/0		/			
レボホリナート	200 mg/m ²	↓					
5-FU	400 mg/m ²	↓					
5-FU	2400 mg/m ²	↓					
オキサリプラチン	85 mg/m ²	↓					
デキサート	6.6mg	↓					
アロキシ	0.75mg	↓					
デカドロン	8mg	↓↓↓					
レスタミン	5錠	↓					
ガスター	1A	↓					
治療開始日	年	月	日	治療 間隔	2週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.4 m ²		
eGFR	60 ml/min	eGFR/BSA	49 ml/min				

Day1-2



投与開始基準
1. 好中球1500以上
2. 血小板7.5万以上
3. AST/ALT < 2.5 × ULN
4. T-Bil < 1.5 × ULN
5. Cr: 1.2未満

減量基準
1. 好中球 500未満
2. 血小板5万未満
5-FUを20%減量
オキサリプラチン65/m ² に減量

* デカドロン錠はday2の朝から内服